

第2回香美市立美良布保育園建設検討委員会
会議録要旨

【開催日時】：令和2年10月23日(金) 18時30分～20時35分

【開催場所】：香美市役所 3階会議室

【出席者】：浜田委員長、信崎副委員長、五百蔵委員、井本委員、井村委員、岡本委員
式地委員、森田委員、小松委員、杉本委員、中山委員、前田委員 12名

【欠席者】：江西委員 1名

【事務局等】：時久教育長、秋月教育次長、公文課長、小松班長
坂本主幹（教育振興課）、門脇技幹（生涯学習課）6名

【傍聴者】：3名

【要 旨】

1. 開会

事務局より開会宣言

2. あいさつ

教育長よりあいさつ

3. 議事

事務局より資料説明

委員長

こんばんは。この会は公開となっております。傍聴人の方はおられますか。

本日は3名の傍聴人がおられるという事です。許可してもよろしいですか。許可という事で中へお入りください。

前回の会が8月25日、大体2ヶ月前になりますかね。前回、美良布保育園を取り巻く環境、それから建設のスケジュールのアンケートについて活発な議論をいただきました。ありがとうございました。本日は、前回の議論も踏まえて、今後どのような場所にどのような保育園を造っていくかという議論になっていくと思います。また新しい保育園の定員や面積規模は当然ながら、建設位置、基本的に言うと今の所に造り直すか新しい場所に造るか、という事になってきますけども。それについても前回の議論の中で、建築予算的な面とかっていうこともあって、比較ができるものというような事もありましたので、その概要も提示していただいて、活発な質疑や議論をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、議事に沿って進行していきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

まず、前回のこの委員会でのご質問に対する回答について、事務局よりご説明をお願い

いします。

(1)前回の委員会での県道久保大宮線に対する回答について

事務局より説明

委員

ありがとうございました。想定した通り狭くなっている所が、非常に狭いなという印象がありましたので、やっぱり心配かなと。現実問題として確認する事ができました。ありがとうございます。

委員長

ありがとうございました。それでは(2)の建築計画・建設設計における基本方針について、これは大枠ですけども建物を建てることについては大変大事な部分ですので、十分議論をしていただきたいと思います。それでは、事務局の方から説明をお願いします。

(2)建築計画・施設設計における基本方針について

事務局より説明

委員長

雑駁な感じですが、いろんな要素を取り入れて書かれています。それでは皆さん、特に重要なものとか、こういうことも必要じゃないかということや、また分かりにくい所があれば質問をしていただきたい。よろしくをお願いします。

委員

ご質問をします。

自然との関係は資料2の(6)豊かな自然を活かした施設とか、(7)コスト縮減や維持管理と話しされているのですが、私は昭和24年生まれでございますが、義務教育いろんな施設を経験して参りました。地域の中で、例えば小学校だとか保育園が無くなる、移転をすることによって地域の実情とか激減するということを度々経験して参りました。今の小学校においても、移転する前は今の支所の所にございました。それだけに、その町筋を子どもたちが通学していく姿っていうのが見えたわけですが、その町筋を通るっていう形が無くなって、シャッター商店街に一層拍車がかかったということがございます。

あと(6)豊かな自然を活かした施設っていう所に、主に木を使うっていう話になっているわけですが、美良布保育園をご存じの方はお分かりになると思いますが、ア

ンパンマンミュージアムを北へ行きますと、旧道とぶつかります。その川上様（大川上美良布神社）の近くに保育園は町立のものとして元々あったんです。従って、遊び時間というのは川上様（大川上美良布神社）の森の中に入って遊ぶ、或いはその広場や境内で遊ぶ。そういう文化施設があるというのを経験しながら育ってきたわけです。現在も、保育園の子どもたちが乳母車の様なものに乗って遊びに行っています。こういう事が地域の中における文化的施設っていいですか、それを育む運営においてかなり重要でそういう視点が抜けているのではないかと。自然と木を使って建物を建てるってなっているわけだけでも、我々が県外に出た時に香北町に何があるって言われると、すぐ思いつくのが川上様（大川上美良布神社）。いろいろ経緯はあると思うのですが、そうした文化施設への思いっていうのは、代々受け継がれてきたものだろうと思います。そして今、保育園の先生方がご苦労されて子どもたちをあそこに連れて行って下さっているっていうのは非常に有難いことだと思うんです。この基本方針の中にそれが抜けていると思います。自然となると、建物を木で造るんだとかそういう話になっちゃって、前にも話しましたように2016年に国交省が出した人口減少問題がどうという問題を引き起こすのかという中にですね、地域におけるコミュニティ力が落ちていっている話もあるわけですね。例えば自治会長や民生委員のなり手がいないっていう話もある。それをもしですね、そういった文化的なものを外した形で基本方針を立てるといふことであれば、香北町民にとってはかなり重要な部分が抜けていると。いきなりバカロレアの話にいかないんですね。もっと地域の中を支えるような人たちと、地域で生活できるような環境ですよ。今、外にどんどん出ちゃう。バカロレアもそうだと思うんだけど、地域の中で男性も女性もちゃんと経済的に成り立っていくような生活をどうすればつくれるのかっていう事に、もう少しその思考を働かせないといけないと思います。どちらかという外へ出ていくっていう感じなんだけど、大学行った人も帰ってきてもらいたい。帰ってきてもらうには、所得を上げるような産業等を結び合わせた思考というのが、保育園の設計についても必要だと思うんだけど、そういう視点はこの中には見られないように思います。文化的な面と、そして香北町に帰ってきて生活できるような産業形態に寄与するような教育とか。税金を使うわけだから。そうした視点をもう少し明確に出すべきだろうと考えております。以上です。

委員長

ありがとうございました。なかなか難しい問題になろうかと思えます。というのはですね、私も豊かな自然環境を取り入れて様々な遊びができるというのは、どういう事を言っているのかなということが1点ありました。もう一つ、委員さんの方からあった部分については全体で議論をしていただいたらいいんですけど、(4)地域がよってたかって子どもを育む施設を地域力の問題として香北地区はこういう風にやっていくん

だと。確かにバカロレアも一つの考え方ですけど、文化とかいろんな部分で移住定住、魅力的な地域、保育園からそうなんだというような部分をもうちよっとしっかりうたい込めばいいかなと。ただ、豊かな自然の部分については、香美市全体で大宮小学校も立派な施設を造ってますから、豊かな自然環境を取り入れるといった時に、木で造る以外の部分をどうやっていくんだという説明をしてもらいたい。ご意見ありがとうございます。

事務局

それも大事な視点だと思って聞かせていただきました。
保育園そのものが重要な文化施設なので、保育園、小学校、中学校、それぞれが揃っている地域で、これから建てようとする保育園の文化施設としての重要性っていうのは本当に大きいものだと思うので、このあたりはこの中に述べた方がいいと思います。後のご意見として言われたように、地域の中で生活できるとか産業と結びつけるあたりは、本県もそうですけど香美市全体として考えていかないといけない事でもあるので、内容的には非常によくわかります。それで、(6)豊かな自然を活かした施設の中に、豊かな自然を取り入れて様々な遊びができる施設ということは、要は今から育ていく子どもたちは地域を作る子どもたちなので、その子どもたちがやっぱり思ったことをいろいろ幼児期に試していけるという事が重要だと思っています。そのために、香北には本当に豊かな自然がたくさんあるので、そういう物や人・環境と触れて、子どもたちが疑問を持ったりとかびっくりしたりとか、いろんなことを発見したりとかいうようなことを、日々の生活の中で積み上げていける香美市が求めている探求心旺盛でいろいろ試したりチャレンジする、そういう子どもたちを保育園で幼児期に思いきり育てて、その子どもたちが小学校中学校と繋がっていった時に、香北の子どもたちは本当にこれからの地域づくりが出来るすばらしい子どもに育つものだという風に思っている所です。文化的な役割の所はやっぱり書き込む方がいいと思いました。

事務局

文化的な役割について、ご意見を取り入れて修正させてもらったものを、また後日提示させていただきたいと思います。

委員

お願いします。文化ということが入っていないということと、今の話の流れでは保育園が持っている文化的役割っていう軸と、地域の持っている文化的役割っていう文化的特色というんですか。教育長も人口問題については非常に高い関心をお持ちだという風にお伺いしているところでございますが、先ほどの合計特殊出生率や出生者数というものを見るとかなり危機的な状況ではあると思います。そして、その教育いかん

によっては子どもたちが、例えば高等教育を受けた子どもが大学に行って帰って来るか帰って来られないかっていう話。帰って来ることを可能にするような教育を作るっていう視点もこの中に落ちてるように僕は思うんですね。実はバカロレアについて、いろいろ関係者の方にご説明をいただきました。わからない部分もたくさんございましたのでネットで見るとですね、幼児期はいいんだけど大学まで行くっていうことになるとかなり経費がかかると。バカロレア教育っていうのは、何段階かに分かれてますよね。一番下がPYPでその次がMYP、次がDPと上がっていくと。DPに上がっていく時には大体1人頭100万円ぐらいの投資がいる。これはネット上の情報ですので正しいかどうかわかりませんが、ネット上の情報であるということを頭においてお聞き願いたいわけで、私がこれについて確信をもっているわけではありません。ネット上にはこういう事が書かれていました。親がすべき7つの覚悟っていうのがあって、お金の覚悟・関わる覚悟・評価(成績)を理解する覚悟・環境を整える覚悟・ある意味日本式の受験を諦める覚悟・親も学び続ける覚悟・我が子が将来海外で暮らすかもしれないという覚悟。その一番金額っていうものを支える人間が絶対必要なわけですね。社会保障制度と考えた場合に帰ってきてもらうだけでも町の役割そのものが消滅していくっていう状況にあるわけですから。何とか帰ってきてもらうような教育というものに力を入れていくべきではないだろうか、と思います。その時に、この基本方針ということが本当に魅力的なのかということについては今日即断しないで、もう一度皆さんで考えていただいたらいいんじゃないでしょうか。やはり町の機能を維持していくためには、帰ってきて受け入れる事ができるような教育環境を目指すっていう事が柱にならなきゃいけないのではないかな。その時には、この町はこういう文化を持ってたよっていうことは、かなり重要な意味があると思うんです。提案ですが、今日ここで基本方針をがっちり固めるのではなくて、全体の話の中で方針を徐々に固めていくという方がよろしいんじゃないかなということをご答弁申し上げたいと思います。よろしくをお願いします。

事務局

バカロレアも含めて香美市の子どもたちの教育を、これからの地域を作ってくれる力強い子どもたちを育てたいと思ってやっています。探究という言葉で教育をくくっているのも、そういったいろんな事を思いついた時にどんどん仲間と一緒に作り上げていける子どもを目指しているの、それをよってたかって地域が支えながらみんなと一緒に作ってこうという方向です。それで、グローバルにももの考えてほしいというのはありまして、これはバカロレアであってもなくても、これからの子どもは世界のことを考えたり世界に出て行ったりいろんなことをすると思うんです。バカロレアに特化していてもいかなんですけど、一番大事にしているのは世界と繋がって考えながらやろうとする時に子どもたちにとって大事な勉強は自分の地元だったり、

自分の生きている今の世界をしっかりと知ることです。外国と交流したりする時、例えば外国の人たちに川上様のお祭りはいつありますか、とかそういう単純なことではなくて、川上様のお祭りのことにすごく興味を持ってもらえたら、そのお祭りがどうして起きたのか、町の人たちやあなた自身はその川上様にどんな風に関わっているのか、となってくるので、実際に体験をしたり考えたりしたことが外国の人に伝えることができる。つまり、地元のことをよく知っている子どもを育てないと、それはグローバルとは言えないので、そういう意味で地元の学習、そして見方は広くというような意味の教育をしようと思っているので、探究的に子どもたちがたくさん試すことができる保育にしたいなと思っています。この基本方針については、今日ここで出して、はい決まりました、みたいな話と全然違うので、ぜひ、またこれに対してご意見をたくさんいただいてしっかりしたものにしていきたいと思いますのでよろしく願いいたします。ご意見ありがとうございます。

委員

国際っていう所にいきなり飛ばないで、もう少しここは落ち着いて議論を積み重ねていく必要がある。

委員長

ありがとうございます。深い議論になるだろうと思います。岡本先生の方からは現場の意見として何かないですか。日常的に感じている事とか。

委員

とても話が大きくてついていけないんですが。今の保育園に大きな木が4本ありまして、ものすごい大木だったんです。私が美良布保育園に来て5年目なんですけど、やっと四電さんをお願いして切っていただいて今マルハゲ状態になっていますが、そういうものがあるっていうことで、子どもたちが落ちてくる葉っぱで遊んだり、そういう環境はすごい大事だと思いますので、私たちも園外に行ったりはしてます。ただ、先ほども言われましたように赤ちゃん組さんは避難車というものに乗せて保育士が何人も連れて出て行くのは難しいですし、保育園までの道のりや学校周辺もものすごく狭かったりするので、出かける時は再三の注意を払っています。少し歩いて行った所に芋を作っていて、もうすぐ芋掘りがあります。地域の方が畑を耕してくださったりお世話をしてくださって。そういう事があって初めてできる保育ですので、やはり地域の方に助けていただきながらできる環境というのは大事ななと思います。それに合わせて中学校小学校との関わりもありますので、できれば近くにいたいという気持ちはあります。

委員長

ありがとうございました。確かに、木はなんであんな木を植えたんだろうと。生命力が強い木なので、だんだん切らんとどうしようもないんですよ。現場としての何か意見ないですか。

委員

基本方針そのものの文言ということではないんですけど、読ませていただいた時に、こういう事を大事にされるのかな、こういう事を大事にして欲しいなと思ったことをいくつか述べさせていただければと思います。今議論になっている(6)豊かな自然・環境を取り入れてっていうのが、園内に取り入れたいのか園外保育として出かけながら近い場所での環境で取り入れると考えるのかで、保育のありようは随分変わるので、このあたりは実際の設計に踏み込んでいった時にしっかりと描いておくっていうことは重要なのかなと思います。やはり大木っていうのはなかなか手入れが難しいので、手入れがしやすいところで留め置くというか。例えば、附属幼稚園では3歳児さんの前には柿の木があるんだけど、鳥に食べさせるぐらいの勢いで上に上には伸びてるんだけど子どもたちにはなかなか手が届かない、という様な事があるんですよ。やはり保育園で取り入れるとなると若木の時に枝振りをよく考えて子どもたちが踏み台に乗ってちょっと頑張れば触れて、取れて、匂いも嗅げてっていうのが教育的だと思います。草や木がただあるだけでは教育的とは言わないので、どのように保育の中に取り入れていきたいのかっていうことを具体的に描いて、数年後どれくらいの高さになるのか。保育現場は女性が多い職場ですから、女性でも手入れができるっていうのは必須条件だと思います。なので、手遅れになる前に低木で止めるような工夫っていうこともすごく重要なのかなと。今だと、何種類も違うどんぐりがあると、子どもたちは『ちっちゃいのが取れた』とか『大きいのはどれだ』とか『傘がついてるの』とかって言いながら、視覚分類がこの時期から十分育ってきて、見たり考えたり集める喜びだったり作る喜びにもつながっていくと思いますので、やはりこの自然環境っていうのはどういうものを指していて、どういう遊びと繋げていきたいのかっていうのはとても重要なのかなと思います。(1)充実した保育を提供できる施設の中の十分な収納スペースを確保し、っていう所ですけども、やはり子供の興味や関心に合わせてこんなしたいっていう欲求に合わせて保育のいろんな環境を整えるというのが保育現場で求められる一番大事なものになると思います。先ほどの自然環境もそうですけど、現在言われている保育は環境を通した保育って言われていて、物をどのように出すのか、何を出すのか、出すタイミングはいつなのかっていうように先生が子どもに関わるのも大事なんだけど、それ以前に何がそこにあるのかっていうことが問われる乳幼児期の保育教育なんです。そういう意味では収納スペースがあるってとっても大事なんだけど、単純に『運動会の物を片付ける場所が欲しいんです』

だけでは、収納スペースの意味はないわけで、それは大きい倉庫があればいいというお話になるかと思うんです。施設内に収納スペースを構えるということは、子どもたちにとって適時性を考えながら興味関心や要求に合わせて出したり入れたりを毎日のようにやっていくような収納スペースがとても重要なのかなと思ったことでした。それから(2)子どもにとって魅力ある施設の中の、探究心だとか子どもたちが共に育ちあえるってということにおいては、異年齢が関わり合い交流が生まれ、遊びの伝承であるなど刺激を受け合うということが重要になってくるかと思います。学年ごとの保育では子どもは育っていきません。特に今少子化で兄弟児さんも少ない。そういう意味では、喧嘩をして育つ、上のお子さんのしてる事を見てまねっこして取り入れてやってみる、或いは上のお子さんは下のお子さんに関わり合いながらやさしく教えてあげるとか。保育時間を設定して異年齢で一緒に遊びましょうというのも大事かもしれませんが、お互いの遊びが見え自然に一緒に遊んでいくっていう事も大事だと思いました。また、(3)安全で安心して利用できる施設の中の、リスクに配慮したっていうところで言うと、リスクだけを考えて安全面だけに配慮してしまうと子どもは育っていかないので、ヒヤリハット体験をするというのもとても重要なことだと思います。なぜならば、ドキドキするからここはこんな風にした方がいいなっていうことを体験的に学ぶわけですよ。いつも安全で何も考えなくても生活できるってなると考える力も育たないし、自分の身体能力に合ったところで考えて遊ぶなんていう力も育ってこないの、いろんな意味で育ちそびれてしまうかと思うので、このリスクに配慮するっていう所は一方では軽いリスク。子どもたちがヒヤリハット体験を豊かに積み重ねられるような施設であるっていう事も大事なのかな、と思いながら述べさせていただきました。

委員長

ありがとうございます。保育士の専門的な部分だけじゃなくて、保護者としてこういう保育園であってほしいなって思っている事があれば何でもいいので。

委員

乳児と3歳児以上の2人を預ける時に、入り口が別々なのでちょっと面倒くさいと思うので、立て替えて楽になったらいいなと。

委員長

結果的に美良布保育園の一つの欠点なんでね。デメリットは園舎が離れている事。園庭が狭いという部分もあります。非常に貴重なご意見であると思います。今後どうなるかはわかりませんが、一つの意見としてそれはどうやったら解消できるか、元の位置になった場合いろいろ考えなくちゃいけない事が出てくるだろうなという事で大切

な意見だと思います。

委員

保育園と併設して、子育てセンターがあるっていうのはすごく良い事だと思います。それから、子育てセンターなかよしとは違って、美良布保育園はセンターの中から保育園の様子が見られるっていうのは赤ちゃんもすごく喜びますし、お母さんたちも保育園に入ったらこんな事出来るようになるんや、とかあんな楽しい事してる、ってことをよく話してください。だからやっぱりなかよし保育園はなかなか子どもさんの様子が見られないんだけど、美良布保育園は保育園の子どもたちが見られる子育てセンターが併設されるとありがたいかなと思います。面積のこととかいろんな事で問題はきっとたくさんあると思いますけど、保護者さん達は今の施設をすごく気に入ってます。以上です。

委員長

ありがとうございます。他に何か意見があれば。

委員

基本方針そのものに文章として載せてほしいというわけでは全然ないんですけども、乳幼児期っていろんな質感・感覚に触れるっていう事はとても重要な事で、それが将来人との関係性のちょうどいい距離感を掴んでいくっていう様な力にも繋がっていきます。例えば、乳児さんになるとふわふわでやさしい素材ばかりではなくて、ざらざらゴツゴツという様ないろんな質感や手触り感覚に触れていくという事も重要と言われているので、新しい建物が建つということですから、そういうものがあればなんて素敵な施設なんだと思ったりしたことでした。ただ、保育園や子育てセンターの先生方がどのような施設を思い描かれているのかっていう所とすり合わせて行かないといけないかなと思います。せっかく建つんだったらそんなことも少し描いてみるっていうのもありなのかなと。以上です。

委員長

ありがとうございました。基本方針についてはいろんな意見がありますので、意見を出していきながら進めたらいいなと思いますが、今日はこの辺までにしたいと思います。またご意見がありましたらこの場でなくても後でも結構ですので、事務局の方に言っていただければ大変ありがたいなと。事務局の方も気づかない事、議論してもわからない部分もありますのでよろしくお願いします。

それでは、(3)施設定員についてを事務局の方から説明をお願いします。

(3)施設定員について

事務局より説明

委員長

新しい保育園の定員数は130名にしたいという事で、これについて何かご意見があれば。移住定住の関係があってどっちかという増やす方向でという所もありました。意見はいろいろあるけど、私が見ても大宮小学校は施設もやろうとしてる事も高知県の中でもトップクラスで、ひょっとしたら移住定住も含めていろんな所から聞き取りなり来る可能性は一つの魅力としてあるんじゃないかなと思います。また、保育園が新しくなってそれに付随した内容であると、ますます来る可能性がある。今現在の入所者数は？

委員

来週から105名になります。

委員長

実際は25名ほど上積みした定員数ということで理解してよろしいんですね。

事務局

はい。そうです。

委員長

何かありますか。

委員

すみません。データの見方を教えてもらいたいんですが。今年はコロナの関係で出生者数は減るんじゃないかっていう話がありますよね。0歳児が10名っていうのはそういうことを勘案しての数字ですか。

事務局

お答えいたします。この数値というのは、去年度策定した子ども・子育て支援事業計画の推計を利用していますので、コロナの影響は勘案していないものになります。

委員

その次の見方ですが、令和2年の0歳児が10名。令和3年が16名。10名が16名に

増えてる。その次が 19 名、20 名、21 名に増えてる。こういう事ですか。

事務局

そうです。この詳しい推計については香美市子ども・子育て支援事業計画を策定する時に、業者の方に人口増とか、転入だとかそういったものを勘案してもらって推計したものの数値となっています。

委員

業者っていうのは総合開発計画とか人口ビジョンを作る時にコンサルタントが一回出したんですよね。そのコンサルタントからのデータということですか。

事務局

コンサルタントさんではあるんですが、その言われているコンサルタントさんとは別のコンサルタントさんです。

委員

人口は増えてもらいたいんだけど、こういう数値を出すときにどういう根拠でこれが出されているのか。合計特殊出生率なんていうのは、今おっしゃった通りかなり確度が高く狂いが無いって言われてるので、そういう風に作られるものであるならばこうした出生者数であるとか、それから 1 歳児、2 歳児っていうのをかなり確度が高いものとして算出できるんじゃないかなというふうに思うわけですが、今日じゃなくてもいいのでまた教えてください。

事務局

はい。わかりました。

委員長

他にご意見はございませんか。定員数というのは、1 人当たりの園児の面積が国の方である程度決まってると思うので、それを定員数にかけて出す。園庭の方は別にしても少なくとも共通してる部分とか、重要でもあると思います。

委員

例えばうちの事業所のスタッフが出産したが、自宅は今のままで勤務地が香北町だといった場合に、この 0 歳児を美良布保育園に預けるっていうのは可能なんですか。

委員

可能ですが、定員がありますので。定員よりはみ出ていたら待機という事になります。4月当初は0歳児は2名でスタートしました。今現在6名でいっぱい打ち止めという形になったので、入りたいと言われても待機という形に。

委員

スタッフから保育園に入りたいと申請を出してるけど、どこの保育園に入れるかわからないという話をよく聞くんですよ。遠くの保育園に連れて行かなきゃいけないって話も聞いててどうかなという風に思ってます。例えば美良布で勤めてるんであれば小さい子は美良布に預けたいと思うんですが、勤務を終えてから土佐山田の端の方まで迎えにいかなくちゃいけないような状況にあると聞いてるので心配になって質問いたしました。

事務局

補足になるかわかりませんが、0歳児でしたら保育士の数も一人の保育士に対して乳児3人という規定があります。雇える保育士さんの数とか。0歳児でしたらほふくもするので1人3.3平米必要とか、そういう決まりごとがあります。それと、香美市の保育園の規模とかによって定員っていうのが決まっていますので、先ほど美良布保育園の園長先生がおっしゃられたように美良布保育園で0歳児を2人でみるとしたら乳児は6人がいっぱいであるという所です。乳児が2人の時にはあと4人ゆとりがありますので4月1日時点で2人ならあと4人は受け入れができますけど全部埋まって6人になったら美良布保育園の0歳クラスに入ることはできませんっていうことになってきます。なので、香美市内のどこかの保育園にということになるので、なるべくお勤め先に近いとか、お家に近いとかそういうところを考慮して選択をしていただいておりますが、保護者の方の就労状況とかいろんなことによりましてお近くに行けないっていう場合も出てきます。

委員長

ありがとうございました。他にご意見は。このデータの関係とかいろいろあると思いますが、今の現状で一定の数字を出さないと次の段階にいけないので、一応130名。状況が変化するとか、香北地区が魅力的という声が上がってきてもっと大きくしなくちゃいけないという時には、また定員数の再考をするというような形でかまいませんかね。

委員

すいません。これは施設の問題なんですか。スタッフの問題ですか。

事務局

ここで出させていただいたのは、まず美良布保育園を建て替えるという観点から言ったらですね、先ほど言いましたように子どもさんに応じての保育園として考えないといけない面積とかそういう事もありますので、この定員の問題を一番最初にお話に持ってきました。例えば、定員 130 名という所がもうちょっと増えるのではないかと、で 140 名になりました。今の定員数が 145 名なので 150 名っていうのはなかなか算出できないような数値にはなってしまうかと思うんです。150 名になりましたっていうと、それに見合う面積が変わってくるので。認可の定員なのでこれを超えてはなかなか受け入れる事が出来ない数のところを一番最初に協議をしていただきたいという所が出てきたものです。

委員

スタッフの問題ではなく、施設の問題。

事務局

まずは、施設をどれくらいの広さのものを造るかっていうところを考えていただく上での定員と考えています。

委員長

それでは次へ移りたいと思います。なぜなら、面積規模ということになります。定員と規模は切っても切れない関係になりますので、その説明を事務局の方からお願いします。

(4)面積規模について

事務局より説明

委員長

ありがとうございました。一つお願いがあるんですが、3,919 平米という数字が独り歩きしないようにしていただきたいなと。先ほど言ったようにプールとかいろんなものが不足していますので。全体の数値を出すという事になるとまた大変な作業になると思うので、今はわかる範囲での単なる数字の整理です。今の所は大体 4,000 平米あるはずなので。例えばこれが今の所ではない別の場所へ移したら最低 4 反くらいの面積はないと駄目ですよ。土地の空間がということで理解していただければ。こういうものも出さないとなかなか理解ができませんのでよろしくお願いします。何か意見はないですか。

委員

定員が6名と18名。実際これ以上は入園できないという考え方でいいのでしょうか。例えば保育者2名について6名。それ以上はもう園児は入園できないという形ですか。

事務局

お答えいたします。これは6名の想定で、6名よりさらに広く保育室も確保できるようにします。その時の状況にもよりますが、それ以上プラスαで入園っていうのは可能だと思います。いろんなニーズに対応できるような施設を考えていますので、その最低限っていう話にちょっと広く保育室を造ろうと思ってるので可能だと思います。

委員

そうじゃないと途中入所があつたりすると思うので。

委員

ほふく室として、実際はその一坪っていうのは子どもたちにとってどんなイメージなんでしょうか。狭い。いろんな子が使うわけだから、一人が一坪を独占するわけではないですね。みんなが共用するわけだから。実際に預かっている側として一坪っていうのはほふくする子どもにとっては狭いんですか。それで十分なんですか。

委員

保育園って1日の生活をする場所じゃないですか。幼児の方にしたら部屋で遊びもするし、ご飯も食べるし、そこで寝るわけですよ。結局、ご飯食べた後は子どもたちがいると掃除もできないし。学校だとランチルームみたいな形があつたりするようですが、食べる部屋と寝る部屋がある方が大人にとってもいいなとは思ってます。あまり無理は言えないですが、部屋は広い方が使い勝手が良くなりますよね。現在の保育園では、ご飯を食べた後子どもたちに外で遊んでもらってる間に掃除して、掃除後部屋に入って寝る。赤ちゃん組さんも同じで、食べた後は支援センターの方に行って遊んで掃除後部屋に入って寝る、という感じです。

委員

建物としては平屋ですか。2階建てですか。

事務局

この後の資料で2階建てと平屋でどういったことが考えられるのか、というのを案として説明させていただきます。

委員長

委員の方から平屋か2階建てかの質問が出てまいりましたので、建設位置の比較案を事務局の方から説明をお願いします。

(5)建設位置の比較案について

事務局より説明

委員長

何か質問、ご意見あればお願いします。

委員

B案についてですけれども新園舎を現在の駐車場に建てるという事ですが、ここに土を入れて高さを上げたりしますか？そのまま低いままで対応するのでしょうか。

事務局

今の想定では、現在の美良布保育園の所まで土を入れて上げる事を想定して概算の工事費を出しております。

委員

そうすると園舎が2階建てという形ですけど、平屋ではなかなか厳しいのでしょうか。

委員長

何かを犠牲にしなくちゃいけない。仮園舎を建てて、現駐車場に新園舎になるとすると駐車場がない。そういう問題も出てきて今の範囲で支障は多少あるけども出来ないことはない。航空写真なのでどうしても現場とは違った見方になってしまうので、改めてこの事については、11月中旬の昼間に周辺を見てみたいと思っています。これは後で事務局から説明があります。ここで出してもらったものは、ある程度お金はこれぐらいかかる、建て方はこういう風になる、というものを出示していただいていますのでよろしくをお願いします。

委員

2階建て園舎のことですが、私は土佐山田町時代にさくら保育園という園におりました2階建てでした。さくら保育園もちよっと狭い所にあり、2階が乳児・1歳児・2歳児で、1階に3歳児・4歳児・5歳児がおりました。保護者の方は園庭からぐるっとスロープを上がるような形で2階へ子どもさんを連れて来てました。ホールで行事が

ある時などは2階にいる1歳児・2歳児は、中の階段を前向きに降りると危ないので後ろ向きでハイハイしながら降りてくるという事が常でした。現在、避難訓練も毎月のようにしていますが、地震があった時の対策で赤ちゃん組さんは避難車で逃げる。2歳児以上は靴じゃなくてもすぐ履けるスリッパで逃げるなどいろいろ練習しています。災害が起こった時の事を考えると、2階建て園舎というのがすごく不安です。それと、見合えるL字型園舎というのが一番子どもの様子を見られるし、何かあってもすぐに対応できるという安心感もあります。もちろん用地の事やお金のことも大事だと思っんですけど、やはり日々の保育の中で安心安全という部分で行くと平屋でお願いしたいというのが気持ちです。

委員長

現場の意見としたら平屋ですね。高知市では、4階建てだったり2階建てはよくあるんですけど、それは土地の面積に限られるし用地が高いので、高さが高くなって園庭も狭いというような形です。どういう園舎にするというのは、現場の声も大切です。どの位置がいいのかと言っても用地はあくまでも個々人の所有なので、それくらいの面積の土地が確保できなければ結果的にはどこにも建てられなくなる。その時にまた議論をしていかないといけないんだろうと思います。一つの案として、今の現状を見た時にある程度園を継続しながら今の市有地も含めて活用したらこういう形も今の所にできる。もう一方で、やはり平屋でちゃんとした建物を造ってもらいたいという事になれば、また別をとという事になります。皆さんにお願いしたいのは、まず方針については継続審議という事で。定員に関しては、面積の方からですから130名。面積の規模については3,919平米という数字を出しているけども、駐車場も含めて少なくとも今出ているデータの面積の広さが欲しいと。それから建設地の比較案についてですけども、これについては皆さんに見ていただいて理解をしていただきたいなと思います。

委員

先ほどの資料の中で、職員さんの車が30台くらいという事ですが、駐車場を2階建てにするという案が出ていない。出勤後車移動をそんなにしないのであれば、駐車場を2階建てにすると、園舎を広く建てられるんじゃないかと。一つの発想じゃないかなと思うんです。頻繁に車を動かすのであれば困るかもわからないけど、出勤してきてしばらく動かさないんだったら。駐車場を2階建てにするのにそんなにお金がかかるとは思えないんだけど。検討していただければと思います。

委員

この比較表のA案B案では、子育てセンターびらふは残すという事だと0歳児の保育

室や1歳児室は残すという事ですか。

事務局

子育てセンターびらふについては平成14年の末に建設され比較的新しいので残すんですけど、今現在子育てセンターびらふ内にある0歳児1歳児については新しい園舎の方というのを考えて想定しています。

委員

職員の駐車場として、敷地外へ駐車場を構えるという案はありませんか。

事務局

検討する中でそういう候補地があれば、それも考えられるかなとは思いますが、今事務局サイドで支所周辺では適当な土地がないんじゃないかという事もありまして、こういう検討をしたところなんです。11月の会は現地視察を考えています。その時にいろいろ見させていただこうと思います。おそらく大きい車で行くことになると思いますが、道が狭いとどこかに停めて歩いていくという感じです。

委員

香北の人は現地で合流するというのはダメですか。

事務局

集合場所は香北支所となっております。

委員長

あと心配するのは、大人数がそろそろと現地を見て勝手にここはどう？とか言うのは所有者の方に非常に失礼になる場合があるので、そこは配慮を要するところですけどね。売りたい人がいたら交渉はしやすいですけど、面積が万が一足りないとか、ここは家があってどうなんだ、というような事があると土地の所有者以外の住んでる方にも影響があることなので、そこはくれぐれも慎重にした方がいいと。香北の方が多いのである程度の事は地元のほうで考えていただくという事があってもいいと思います。ただ、用地交渉時はまだ人の土地です。そこは注意をお願いしたい。

4. 次回開催日について

事務局

11月11日(水)か11月18日(水)のどちらか、委員さんになるべく来られる日に決定を

させて頂いただけたらと思います。

委員長

今日決めるのは難しいかもしれない。11日と18日、どちらか人数が多い方をお願いしたいなど。学校関係とか保育園の関係もありますので、早めに決めないといけないですね。

委員

どちらでも大丈夫です。

委員長

両日とも仮に押さえておいていただけますか。できるだけ、1週間以内に返事をもらうという事で。

事務局

そしたら、10月中を目途に事務局の方に連絡をいただきたいです。委員さんの出席人数が多い方の日に現地視察を行いたいと思います。

委員長

今日返事のできる方は事務局の方に言って帰っていただければ、事務局の負担が少なくなると思いますので。

事務局

お願いいたします。事務局からは以上です。

委員長

ありがとうございました。他に何かこれに関連したご意見とか、言っておきたいことがあればよろしく申し上げます。いろいろ2時間ほど話して参りました。今日話したことを基にして11月の現地視察で確認をして、また話をしたいなど思いますのでよろしく申し上げます。

それでは、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。

5. 閉会